

胆石症

肝臓でできた胆汁という液が十二指腸に流れていく道を胆道といいます。そして、胆道に石ができる疾患を胆石症といいます。

できる場所により、胆嚢結石と胆管結石に分けられ、石の成分によってコレステロール胆石と色素胆石に分けられています。コレステロール胆石は糖尿病や高脂血症、色素胆石は肝臓病と関係が深いといわれています。

症状のない胆石まで含めると、成人の5〜10%は胆石を持っていますといわれています。症状としては、腹痛（痙攣発作といえます。油分を多くとつた後に起こしやすいといわれています。）が最も特徴的ですが、黄疸や発熱などが見られることがあ

ります。

検査法として、最も広く行われているものは超音波検査です（図1）。CT検査では、石の成分によっては写らないこともあります。以前は造影検査が必要になることも多かったのですが、最近ではMRIを利用したMRCPという方法が広く行われるようになり（図2）、造影検査は治療を兼ねて行

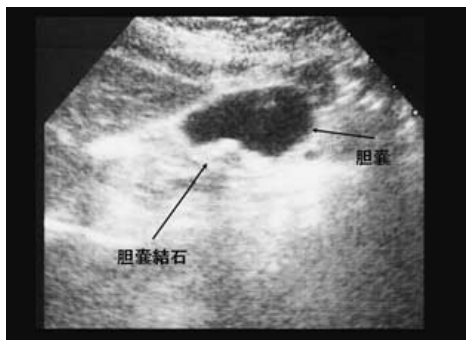


図1

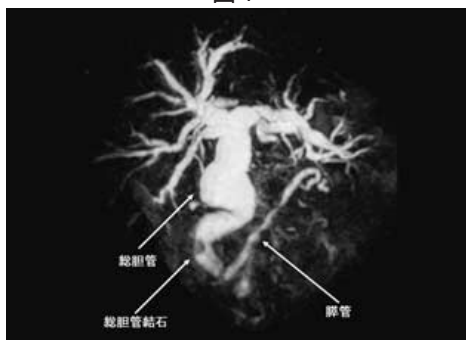


図2

われることが多いようです。治療は胆嚢結石と胆管結石で違ってきます。胆嚢結石では薬で溶かす方法（溶解療法）や衝撃波で破壊する方法もありますが、確実な方法はやはり手術です。最近ではお腹に数カ所孔を開けて胆嚢を取り出す手術（腹腔鏡手術）が行われ、入院期間が短くなってきました。

一方、胆管結石は内視鏡で造影検査をした後、十二指腸を少し切り開いて石を取り出す方法（乳頭切開術）などを行って、手術をせずに治療ができることも多くあります。



庄原赤十字病院
内科
服部宜裕

庄原地区は特に高齢者に胆石が多く、緊急治療が必要になることも少なくありません。糖尿病・高脂血症や肝臓病がある方はもちろんですが、そうでない方も日ごろから人間ドックなどで胆石がないかどうかチェックしておくことをお勧めします。

また、実際に胆石がある方は、油分を取り過ぎないといった日常生活の注意と、発作を起こした場合には早めに医療機関を受診することを心がけましょう。

補助犬(盲導犬) 給付事業

広島県視覚障害者団体連合会は、視覚障害で1級または2級の身体障害者手帳所持者を対象に、補助犬（盲導犬）を給付します。（給付頭数は県内で1頭）

要件 給付候補者となるためには、次の要件を満たすことが必要です。

- ・ 就労などにより、社会参加の効果があると認められること。
- ・ 本人および世帯の前年の所得税額が一定以下であること。
- ・ 盲導犬を適切に飼育できると認められること。
- ・ その他、連合会が定めた基準を満たすこと。

申請 8月20日（水）までに、社会福祉課障害者福祉係（☎08224731210）、各支所保健福祉室または市民生活室へ。
問い合わせ

広島県視覚障害者団体連合会
☎0822292320
FAX0822292320